

事業所名 ※ グループホーム なごみ

日付 平成 21 年 10 月 19 日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 健康運動指導士
実務経験10年以上

ホームヘルパー2級
実務経験3年以上

自主評価結果を見る (評価内容と一緒に添付しています。)

評価項目の内容を見る ※

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!) ※

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)
(記述式)

グループホームなごみは国道に近い住宅地に位置しているが、騒音が少なく静かである。玄関に続くアプローチの両側にはよく手入れされた季節の花や野菜のプランターが整然と並んでいて、訪れた人に安らぎを感じさせる。建物の周りには花や緑樹が多く、落ち着いた気持ちで生活できそうである。平屋の建物の内部はゆったりとした広いスペースがあり、2つのユニットは端から端までが直線の廊下で結ばれ、全ての居室の入口が見とおせる構造になっている。二つのユニットの間は仕切りがなく、入居者が自由に行き来できる。事業所の建物から少し離れた所には菜園があり、ホームから菜園までが入居者の散歩のコースとなっている。車いすの入居者が多く、移動が大変だろうと想像するが、野菜の植え付けや収穫を楽しんでいるようだ。職員は入居者が笑顔で過ごすことができるように優しく話しかけたり、入居者の気持ちを推察しようと顔を見ながら言葉をかけている。また、職員は、入居者にいつまでも身だしなみに関心をもって欲しいと考え、美容院を替えてみるなど試行しながら支援している。経営母体である医療法人の医師との連携もよくとれており、適正な医療が受けられるようになっているので、入居者も家族も安心しているようである。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

地域のボランティアの受け入れやお祭への参加など地域との交流はあるものの、ホームの活動についての理解を深めてもらうためのホーム側から地域への働きかけが少ないようである。運営推進会議はあまり開催されていないようである。入居者の重度化で車いすの方が多いが目立つが、自走の努力や車いすから椅子、椅子から車いすへの移乗など重度化予防のための方策も試みる必要があるのではないかと思う。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	入居者がその人らしく、ゆったりと心地よく笑顔で過ごせるように職員が落ち着いた気分で接するよう心がけている。入居者の第二のわが家として、穏やかに過ごせるグループホームをめざしている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	職員は入居者一人ひとりの対話を大切にしており、入居者の目線で話をするように心がけている。不安そうにしている入居者には話を聞き、落ち着くために入居者に寄り添い、行動を共にしている。車いすの入居者が多いが、それでも穏やかに生活できるように、職員は優しく話しかけたり、入居者の気持ちを察知しようと入居者の表情や動きに注意している。重度化してなかなか思うように動けない入居者に対しても、職員は笑顔をやさしいように気をつけながら、戸外に誘ったり、少しでも個人の要望に沿うよう努力している。		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持		○
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	入居者一人ひとりの今までの経験や体験を大切にしており、入居者の笑顔が絶えないように、言葉かけをするようにしている。居室に設置したポータブルトイレを使用してもらうときは外から見えないように窓のカーテンを閉じてプライバシーの保護に配慮している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組		○
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元		○
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	職員には、消防署が毎月開催する救命救急の研修を受講してもらっている。また、介護労働安定センター主催の研修会にも参加してもらって、サービスの質の向上に努めている。		